

1. 労組法案の成立延期、政府が組合側に配慮

カンボジア政府は、労働組合関連法案の成立延期に合意した。法案可決に先立ち、下院の議員らが関連省庁や労使関係者の代表らと協議する方向だ。同法案をめぐるのは、かねて労組側が強硬に反発。特に政府に対する財務状況の報告義務や、組合の結成に必要な労働者数の下限に関する規定に不満を示し、3日には国会周辺で労組 23 団体の関係者が抗議活動を行った。労働者運動集団連盟 (CUMW) のパウ・シナ会長は、財務状況の報告規定について「政府の監査委員会に組合の収支状況を報告する義務が生じれば、労組の運営の自主性が損なわれてしまう」と懸念を表明。組合員数の下限規定に関しては「労働者の基本的な権利を制限する」と批判している。労組の反発に対応するため、下院は今月初めから法案を審議する委員会、詳細な検討作業や関係省庁との協議を実施。さらに 15 日には「全ての関係者」を招いて会議を開催することも決定した。政府はこれまでも、労組側の要求に応じて譲歩の姿勢を示してきた。7月には労組結成に必要な労働者数の下限を「工場労働者の 20%」から 10 人に引き下げるとの妥協案を発表。これには使用者側から「必要以上に労組を乱立させるだけ」との批判も出ていた。

2. 縫製業労働組合、ストライキで脅す

11/03、縫製業の労働組合のグループが、もし労務省が労働条件改善の要求について何も対応できないなら、全国的な大規模ストライキを執行する、と警告を出した。Collective Union of Movement of Workers の Pav Sina 氏は「私たちは 10 月 21 日に労務省に手紙を宛てて、具体的な要求内容を伝えた。彼らが、私たちの要求に対して同意するかどうかわかりません。今はまだ何の返事もあります。2 通目の手紙を出す予定ですが、もしこれで返事がなければストライキを行います」と話している。手紙には、短期雇用契約の廃止や、労働組合のリーダーに対する告訴の取り消し、他の産業分野における最低賃金の設定などが、要求項目として挙げられている。

3. 労働組合の要求、いまだ反応を得られず

縫製業労働者の大幅な状況改善を目指し、労務省に繰り返しストライキをするとして脅しをかけていた労働組合グループだが、いまだに労務省からの反応はなく現在は海外の団体へ助けをもとめているという。10 月 21 日、9 つの組合が 13 の要求項目を発表する手紙を公表。労働者が求めていた賃金よりもずっと低い額が来年の最低賃金として決まったため、このような活動を行っている。手紙の公表から 3 週間がたったが、労務省と雇用者側の、どちらからも返答を得ることができていない。Coalition of Cambodian Apparel Workers Democratic Union 代表の Ath Thorn 氏は、「私たちはいま、国際的な団体である Trade Unions Congress や IndustriALL に送る手紙を書いています。また、ヨーロッパのブランド企業とも引き続き話し合いを続けています」と話をした。しかし労務省のスポークスマン Heng Sour 氏は「手紙をもらわなくとも、同じような要求は、最低賃金が決まったその日にすでに伝えられています。要求項目についてひとつひとつ検討している段階ですが、最低賃金に関わる要求については無理だとしか言いようがありません。それはすでに決まったことですから」と話をした。

4. 工場で死亡した少女の死因、まだ分からず 工場労働者約500人集団失神

縫製業労働者が勤務中に死亡した事件の調査について、政府の数名が異なる説明を行っている。死亡したのは Prey Veng 州の R Sambath Trading 社で働いていた 19 歳の Vorn Srey Neang さんで、彼女は仕事中に突然気絶し病院に運ばれたが、そのまま目を覚ますことはなかった。警察によると彼女は症状として、頭痛、嘔吐、呼吸困難などが見られていたという。しかし原因がはっきりしないまま、工場は再開した。同僚の死の知らせを耳にした多くの労働者 (500 人ほど) が連続して気を失った事を受け、政府は工場の操業一時停止を命じていた。National Social Security Fund のスポークスマン Cheav Bunrith 氏は、工場のコンディションは問題がないものと判断したが、彼女の死が職場環境にもたらされたものか、それとも彼女自身の健康問題によるものかはまだはっきりしていないという。しかし一方、NSSF の Prey Veng 支店のテクニカルオフィサー Pol Lari 氏は、「調査はすでに終了した」と話をした。「彼女の死因についてははっきりしています。ただ、発表することが認められていないのでまだ公にはできない」と発表。日曜日の声明では、Coalition of Cambodian Apparel Workers Democratic Union は死因への徹底的な調査を求め「政府は労働者の健康を守る為、全ての工場の水質や電気系統、汚染度や警報機などの調査を行うべきだと思います」と話した。

5. Takeo 州で300人のストライキ

11/11、Takeo 州の縫製業労働者 300 人は、2 週間のストライキに引き続いて労務省の前でストライキを行った。スト

ライキへの参加を理由に 1000 人の労働者が解雇されたことや、食費・交通費の支給について政府の介入を求めている。Collective Union of Movement of Workers ディレクターの Pav Sina 氏によると、労働者の要求項目は各方面から無視されており、裁判所も『ストライキをやめるように』『解雇を受け入れるように』といった内容の令状を発行した。そしてこれは労働者のストライキに火に油を注ぐかたちとなったという。「裁判所が令状を出す前に問題を解決することができなかったので、多くの労働者が職を失うこととなりました。また、令状が出たため、工場のオーナーは要求項目について注意を払わなくなりました」と Sina 氏は話す。

Labour Ministry の Conflict Department に所属する Vong Sovann 氏は、「裁判ではなく交渉によって、11/12中にはなんとか問題を解決したいと思っています」と話した。Hong Seng Textile 工場と Yuan Da Rong Fong 工場は、Donkeo 地区にある中国籍オーナー所有の工場で、別の工場として登録されているものの、代表者もオーナーシップもすべて共有しているという。

6. アルマーニのサプライヤー、工場を閉鎖し受注を移転

プノンペンにある Kin Tai 工場は、台湾国籍のオーナーが所有しアルマーニの製品を受注していたが、汗が吹き出る温度のなか労働者が気絶する事態が頻繁に起こっており、11月の第2週、閉鎖が決められた。「オーナーが国内にある別の 2 つ目の工場に、全ての受注を移してしまった」と突然職を失った数百人の労働者たちは訴えている。閉鎖の発表が公式なされたのは 11/11 だが、その前から操業を停止していたという。この工場には、ポスト紙の取材陣も足を運んだが、工場内の温度は 37 度を超えるほど暑く、仲裁審議会が何度も『スプリンクラーを天井に設置するように』と命令を出していた。しかし工場側には改善する気が全く見られず、労働環境は数年前から問題視されていた。

Kin Tai 工場の労働者たちは、熱に耐え意識を失わないようにするため、カンボジア伝統のコイニング(擦り傷になるまで肌をコインで引っ掻く、カンボジアの伝統療法)を行っていたという。労働者たちは大半が 3 ヶ月から半年の短期雇用契約を結んでいたため、勤続手当もなく、有給休暇についても権利があるのかどうかさえ理解していなかった。11月6日に署名された工場閉鎖の発表を知らせる紙には、労働法で定められている分の賃金や手当の支払いについては、送金が行われると書かれていた。しかし Kin Tai 工場に勤めていた人々は、「会社が払うとしている金額よりも、私たちにほっと多くもらう権利があるはずで」と訴えている。

Kin Tai 工場の労働組合代表 Chheang Thida さんは、「工場が操業を停止していた期間分の給料を受け取る権利がありますし、勤続手当ももらえるはずで」と話した。また、Kin Tai 工場で 4 年間働いた 35 歳の Treng Sopheap さんは、「収入がなくなりました。然るべき金額をすべてうけとることができるまで、私は工場を去りません。権利を主張するためにデモ活動をします」と話した。Community Legal Education Centre のコンサルタント Joel Preston 氏は、Kin Tai の労働組合員たちから様々な報告を受けている。彼は「工場の閉鎖は、アルマーニが発注をやめたからでなく、オーナーが受注の配分について新たな形をとったからです。デザイナーズブランドの受注を、Kin Tai 工場から Kandal 州にある 2 つ目の工場、Golden Plus Textile に移しました。プノンペンでは労働者を全員解雇しましたが、実際、Kandal 州の工場では、現在人を募集しています」と話をした。

Cambodian Alliance Trade Union (CATU) 代表の Yang Sophorn 氏は、「GMAC のメンバーリストによると、Kin Tai 工場と Golden Plus 工場は、同じバイヤー、同じオーナーで操業していました」と話した。問い合わせたところでは、二つの工場がオーナーシップを共有しているという確証は取れず、Kin Tai 工場が閉鎖したことのみ確証がとれた。アルマーニへも問い合わせているが、まだ返答はない。

7. サムランシー党首に逮捕状

11/13、プノンペン裁判所は、カンボジア救国党のサムランシー党首に対する逮捕令状を発行した。フンセン首相は、「サムランシー党首が東京で行った発言に対して、我々は法的処置をとるつもりだ」と話していたが、24 時間以内の逮捕状発行となった。サムランシー党首はその時、日本から韓国へ向かう最中であつた。首相は、サムランシー党首が今回東京で、カンボジア与党が国民選挙にいかに関与しているか、という話題をあげて名誉を毀損したことが問題だと主張していた。ところが、今回の逮捕は、2011 年にサムランシー党首に対して出された有罪判決に伴うもので、これは 2008 年、副首相兼外務相である Hor Namhong を侮辱した罪で訴えられたものだ。サムランシー党首は、「Namhong 氏はクメールルージュ時代の収容所 Boeung Trabek の運営に関わっていた」と主張し訴えられ、欠席裁判のなかで 2 年の懲役判決が出ていた。また、当時、サムランシー党首は、ベトナムとの国境を示す国境杭を引き抜いた罪で、10 年以上の懲役判決も受けていた。しかし、逮捕状によると、今回の逮捕は Hor Namhong 氏への名誉毀損が罪状である。これに対して野党の Teav Vannol 氏は、「この名誉毀損は 7 年前に訴えられたものです。なぜ今になった逮捕状を出す必要があるのでしょうか。明らかに、政治的な意図がかかっているとしか思えません。裁判所は政治的な圧力をかけられて、逮捕状を発行したと思います」と話をした。

8. メイドを殺したマレーシア人夫婦が死刑

マレーシア国籍の夫婦が、2012年にカンボジア人のメイドを殺害した事件について、死刑が判決で決まった。Chew Tong 被告 46歳とその妻 Chin Chui Ling 被告 43歳は、当時夫婦のもとで働いていた Kampong Thom 州出身、23歳の Mey Sichan さんを殺したとされている。マレーシアの新聞『Star』では、Sichan さんが長期間食べ物を与えられなかったという傍聴の内容を記している。Star の記事では、『メイドの死因は胃潰瘍穿孔(胃壁に穴があくこと)による急性腹膜炎で、これは虐待や食べ物が与えられなかったことが原因で起こったもの』とされている。カンボジアの労務省は、今後同じような事件が起こらないでほしい、とコメントして受け入れた。「メイドを虐待している人たちにとっては、見せしめにもなるでしょう。マレーシアの政府が、移住労働者の人権を軽く扱っているわけではない、という証明にもなりました」、と労務省のスポークスマン Heng Sour 氏は話した。

現地の NGO 団体 Legal Education Centre 代表の Moeun Tola 氏は、Sichan さんをマレーシアに送った職業斡旋業者も、もっと調査されるべきだと話す。「もし、Sichan さんが事前に、業者に相談していたのに助けなかったのだとしたら、業者も裁判にかけられてそれ相応の罰を受けることが必要だと思います」、と話をした。Sichan さんを派遣したのは MLC Labor Supply 社という会社で、まだコメントは出ていない。2011年から、虐待を防ぐ目的で、カンボジア国内の労働者をマレーシアに送ることには規制がかかっているが、政府は規制の緩和を試みている段階である。Sour 氏は、「2国間での同意がいつになるかまだ定かでない」、と話をした。

9. 最近の外資の進出状況

・大塚製薬、カンボジアでポカリスエット発売＝韓国から輸出

12/01、大塚製薬は、カンボジアで同日に清涼飲料水「ポカリスエット」を発売したと発表した。韓国のグループ会社「東亜大塚」で製造した缶製品を、カンボジアの流通代理店を通じて販売する。

・中国の中信重工、セメント設備受注

上海証取に上場するセメント設備・鉱山設備メーカーの中信重工機械(河南省洛陽市)はこのほど、カンボジアのセメント会社ティップ・モン・インセ・セメント(CMIC)からセメント設備の設計・調達・建設(EPC)業務を受注した。受注総額は1億5400万米ドルで、現地に日産5000トン級のセメント工場が建設される。工期は2年の予定。

以上